

平成 30 年度入学式

新入生のみなさん、ご入学おめでとうございます。職員・在校生一同、心から皆さんを歓迎いたします。



▲第 36 回入学式
196 名入学



▲新入生代表宣言



▲上級生による
校歌の紹介



▲学校の先生の紹介



～校長式辞～

各地に大雪をもたらした冬の厳しさも去り、春が駆け足でやってきました。この佳き日に平成 30 年度愛知県立豊橋西高等学校第 36 回入学式をあげ、新入生 196 名を迎えることができ、本校教職員、在校生一同、大変うれしく思います。保護者の皆さまのお喜びもひとしおのことと、ご推察します。また、ご来賓の P T A 会長・池原繁様、副会長・宮本秀泰様のご臨席に対し、厚くお礼申し上げます。

さて、新入生の皆さん。入学おめでとう。新しい制服に袖を通し、初めて高校生の姿で正門をくぐった時、どんな気持ちになりましたか？期待。緊張。不安。目に映るすべての物、からだで感じるすべての感覚を、どうか大切にしてください。今日から新しい生活が始まるのです。周囲が少しずつ変化し、あなた自身が生まれ変わろうとしている、その瞬間を、迎えているのかもしれない。

不安の向こう側に、いくつかの希望が見え隠れしています。それが見えるでしょうか？決してあせることはありません。西高の先生方や先輩達と一緒に頑張れば、きっとその姿が見えてきます。

本校は普通科ですから、大学など進学を前提に勉強していきます。が、少数ながら外国人選抜を実施し、日本語に慣れていないその子達もついていけるよう、授業はわかりやすく展開されます。普通科の中の特色の 1 つとして、一部 2 年生から「情報活用コース」が生まれ、大学と連携したレベルの高い研究発表会を実施します。2 年後にスタートの「総合学科」に向け、学校全体でいろいろな方面に特色を出していく、その準備が始まります。部活動はより活発にしようと思っています。

新入生の皆さんは、1 つ 1 つの出会いを大切にしてください。3 年間かけて、希望・夢を、是非とも必ずつかみとりましょう。その夢の実現のために、私が最も大事だと思っていることをこれから伝えます。それは、正しい方法で自分に対して「自信」をつけるということです。このことについて、ある人はこう言っています。

「僕は、高校生の頃を買ってもらった自転車に、35 年たった今も乗っています。100 キロも 200 キロも離れたところにも行ける素晴らしい自転車です。たくさん転んだし、パンクしたし、チェーンも切れました。それでも、直し続けたから、今でも僕の相棒です。僕には自転車という好きなことがあり、軽く良く走るよう、自分で改良しました。やがて僕の足腰には筋肉が付き、短距離走が速くなりました。そうしたら体育の時間でも、活躍できるチャンスが増えました。自転車のおかげで身についた、体力、メカの知識はやがて、僕の自信になっていきました。」(植松努『どうせ無理』と思っている君へ 本当の自信の増やし方』PHP 研究所 P 56～59。P 134～137) (省略多数。一部修正)「植松努」という人が書いた「本当の自信の増やし方」(副題)という本に出てくる話です。

植松さんは、もともと体が弱く、高校卒業後北海道の小さな町工場で働いていたのですが、自転車が好きになったのがきっかけで、めきめき力をつけ、宇宙にロケットを飛ばすという自分の夢を、とうとう実現させました。正しい方法で、「自信」をつけることがいかに大切か、わかります。

入学式が終わって教室に向かう時、もし余裕があったら、周囲を見渡してみてください。本校の 2 階 3 階の教室はとても見晴らしがよく、校歌に出てくるように、北には本宮山が見守り、南には三河港の青海原が広がっています。

外に出て、春風に身をまかせ、高校時代に何をやりたいか、どんな自分になりたいか、心の声を聞いてみるのもいいでしょう。いろいろな場所に顔を出し、運動部・文化部、様々な部活動を見学し、自分のやりたいことを積極的に探してみましよう。

西高が建つこの地は、今から約 140 年ほど前、何度かの失敗を乗り越え、荒海を開拓し、豊かで実り多い新田へと作り変えていった人々の、心意気・希望・夢が脈々と受け継がれています。自転車置き場の入り口には、校訓「為せば 成る」が刻まれた石碑があります。江戸後期から明治にかけての新田開発以来、この地で受け継がれてきた気概あることばです。

教室に入ったら、同じ机で学ぶことになるクラスメイトにためらわず、話しかけてみましょう。今までやらないできたことを

「今度はしっかりやろう」という心意気を持ちましょう。アドバイス・助言をくれる先生方や先輩、お父さんお母さんに対して、素直に心を開きましょう。

夢に向かってロケットを飛ばした植松さんは言っています。「自転車も人間の心も同じだ」と。「どんなに壊れても、直せる。直したら、愛着がわく。君の心は、修理する価値のある、尊いものなのだ。(多数省略・修正あり・傍点引用者)」(P56~59、P134~137)」と。

高校生活で、自分の良い部分や好きな分野を見つけてください。植松さんが言うように、何か1つできるようになると、それが自信になって、学校が楽しくなります。自分を大切にするようになります。同じ分野で頑張ろうとしている友達と自然に出会います。最初あった不安は、次第に小さいものとなっていくことでしょう。

最後になりましたが、保護者の皆さま、ご来賓の皆さま、約1万人に及ぶ同窓生の皆さまとともに、どうか新入生諸君のこれからのがんばりを、一緒に見守り、応援していきましょう。

平成30年4月6日

愛知県立豊橋西高等学校長 西牟田哲哉

